

総務分科会 個別事務事業評価シートまとめ

| 事業No. | 9 | 事務事業名 | 地域自治組織運営事業 | | | | |
|-------|---|-------------------------------|------------|---------|---------|-----|-------------|
| 基本目標 | 9 | 20 地区が輝く生き活きとした地域づくりを地域主体に進める | | | | | |
| 年度戦略 | ① | 住民みんなで進める自治を育む | | | | | |
| 委員名 | 「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性 ・戦略的事務事業は、年度戦略（小戦略）を実現するために妥当か。 ・実現するために見直しや改善点はあるか | | 継続 | 改善 有 | 改善 無 | 見直し | 次年度以降に対する判断 |
| 集約 | <ul style="list-style-type: none"> ・所長会検討会を、人口規模に応じて4ブロックに分けたことにより、共通課題を共有できたことは評価する。 ・まちづくり委員会役員の負担(感)軽減については、次世代につながる自治力を維持しようとする取り組みが始まったところである。引き続き具体的な模索を進めていく必要がある。 | | | | ○ | | |

| 事業No. | 10 | 事務事業名 | 地域自治組織助成事業 | | | | |
|-------|---|-------------------------------|------------|---------|---------|-----|-------------|
| 基本目標 | 9 | 20 地区が輝く生き活きとした地域づくりを地域主体に進める | | | | | |
| 年度戦略 | ① | 住民みんなで進める自治を育む | | | | | |
| 委員名 | 「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性 ・戦略的事務事業は、年度戦略（小戦略）を実現するために妥当か。 ・実現するために見直しや改善点はあるか | | 継続 | 改善 有 | 改善 無 | 見直し | 次年度以降に対する判断 |
| 集約 | <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり委員会の活動活性化のためのパワーアップ地域交付金等は、助成事業として妥当である。 ・パワーアップ地域交付金の見える化を進めているが、各地区の課題解決のための助成事業として理解され、執行されているかについては疑問が残る。 ・地域の高齢者などがやむを得ない理由で脱会を迫られることがないように「緩やかなつながり」を大事にされたい。 ・未加入者へのアプローチとして「緩やかなつながり」から次のステップへ進むための研究や議論を進める必要がある。 | | | | ○ | | |

| | | | | | | | |
|-------|---|---|-------------------|-----|-----|-----|---|
| 事業No. | 13 | 事務事業名 | 20 地区田舎へ還ろう戦略支援事業 | | | | |
| 基本目標 | 9 | 20 地区が輝く活き活きとした地域づくりを地域主体に進める | | | | | |
| 年度戦略 | ② | 地域の担い手を確保し、活力を維持するための「20 地区田舎へ帰ろう戦略」の推進 | | | | | |
| 委員名 | 「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性 | | 継続 | 改善有 | 改善無 | 見直し | 次年度以降に対する判断 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・戦略的事務事業は、年度戦略（小戦略）を実現するために妥当か。 ・実現するために見直しや改善点はあるか | | | | | | |
| 集約 | <ul style="list-style-type: none"> ・各地区の基本構想実現に向けた取り組みを支援している点は評価するが、地区の事業が「田舎へ還ろう戦略」と関連付いているか今一度点検する必要がある。 ・各地区の基本構想をベースにして、その進捗具合を各地区まちづくり委員会で自己評価し、それを「見える化」する必要がある。 ・移住定住に繋げるためにまちづくり委員会が主体となって何ができるのか、各地区の基本構想には取り上げられているが、実践されているのか指導や支援の充実が必要である。 | | | | ○ | | <ul style="list-style-type: none"> ・全市的な視点、20 地区それぞれの視点で取り組むこと重要性は論を待たないが、これらの中間として飯田市の特徴としての「山・里・まち」の暮らしの視点で田舎へ還ろう発信をすると、移住・定住志望者の感触を得やすくなるのではないか。 ・各地区の個性は大切にしつつも、地区ごとで取り組むことには限界があり、飯田市として主導していく必要がある。 |

| | | | | | | | |
|-------|---|-------------------------------|-----------|-----|-----|-----|---|
| 事業No. | 17 | 事務事業名 | 中山間地域振興事業 | | | | |
| 基本目標 | 9 | 20 地区が輝く活き活きとした地域づくりを地域主体に進める | | | | | |
| 年度戦略 | ③ | 中山間地域をもっと元気にする | | | | | |
| 委員名 | 「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性 | | 継続 | 改善有 | 改善無 | 見直し | 次年度以降に対する判断 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・戦略的事務事業は、年度戦略（小戦略）を実現するために妥当か。 ・実現するために見直しや改善点はあるか | | | | | | |
| 集約 | <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ7 地区の各取り組みへの協働、支援は妥当である。 ・今後は中山間地以外の市民の関心が深められるよう検討願いたい。 ・「元気」をどう評価するか難しいため、執行機関側の考え方を明確にされたい。 | | | | ○ | | <ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域の活力が飯田市全体にとって必要な取り組みであり、中山間地域と行政の協働のみならず、全市的な取り組みとされたい。 ・地域おこし協力隊については、中山間地域を起点としながら飯田市全体の地域振興に取り組む仕組の構築を検討されたい。 |

| 事業No. | 20 | 事務事業名 | 移住定住推進事業 | | | | |
|-------|--|-----------------------------------|----------|-----|-----|-----|---|
| 基本目標 | 2 | 飯田の魅力を発信し、つながる人を増やし、飯田市への人の流れをつくる | | | | | |
| 年度戦略 | ③ | 「結い」による多様な暮らしを応援する移住定住の推進 | | | | | |
| 委員名 | 「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性 | | 継続 | 改善有 | 改善無 | 見直し | 次年度以降に対する判断 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・戦略的事務事業は、年度戦略（小戦略）を実現するために妥当か。 ・実現するために見直しや改善点はあるか | | | | | | |
| 集約 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動指標が「相談」「実績」とともに増加傾向であるのは評価できる。 ・移住者が飯田から離れる実績をできる範囲で把握できる仕組みを構築し、「なぜ飯田から離れるのか」という生の声を蓄積し、今後の事業に活かせるよう取り組まれたい。 ・今後の課題として、移住を希望している人にとって魅力的だと思われる飯田市の良さを各地区別（地区別にアピールするところ）に拾い出し、飯田市のアピールポイントとして紹介したらどうか。 | | | | ○ | | <ul style="list-style-type: none"> ・これからの移住政策として、積極的な移住者希望者だけではなく、潜在的な移住予備軍など、対象となる人たちの欲求にも目を向け、専門家の分析や指導なども仰いだらどうか。 |

| 事業No. | 22 | 事務事業名 | 人権・男女共同参画推進事業 | | | | |
|-------|--|--|---------------|-----|-----|-----|---|
| 基本目標 | 10 | 個性を尊重し、多様な価値観を認め合い、活動の場を広げる | | | | | |
| 年度戦略 | ① ② | 多様性とムトスの行動力でまちづくりを推進 多様性が尊重され、安心して暮らせる地域づくり | | | | | |
| 委員名 | 「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性 | | 継続 | 改善有 | 改善無 | 見直し | 次年度以降に対する判断 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・戦略的事務事業は、年度戦略（小戦略）を実現するために妥当か。 ・実現するために見直しや改善点はあるか | | | | | | |
| 集約 | <ul style="list-style-type: none"> ・行ってきた各種の啓発活動は評価する。 ・今後、ジェンダーギャップについては啓発、学習の域から脱し、女性が活躍できる環境をいかに作るかが課題。 | | | | ○ | | <ul style="list-style-type: none"> ・この事業は「人権尊重」と「柔軟な働き方改革」に力を入れている。取り組みの内容は良いと思うが、ジェンダーギャップ解消に一層力を入れていく打ち出しも必要ではないか。 ・ジェンダーの不平等について近年、同質性の高い組織(女性が少ない)よりも多様な構成員を持つ組織の方が高パフォーマンスであると明らかにされている。「個性を尊重し、多様な価値観を認め合い…」良い社会にするというモラルではなく、事業所、地域、行政などで女性活躍の環境づくりが必須となっていることを考えると、どう組織を変革させるかの検討を始めるべきである。 ・組織が活性化されることで若年女性の帰飯も進むと考えられる。 |

| | | | | | | | | |
|-------|---|---------------------------------|-------------|----|-----|-----|-----|-------------|
| 事業No. | 23 | 事務事業名 | 多文化共生社会推進事業 | | | | | |
| 基本目標 | 10 | 個性を尊重し、多様な価値観を認め合い、活動の場を広げる | | | | | | |
| 年度戦略 | ③ | 国籍や文化等の多様性を認め合い、外国人住民と共生する地域づくり | | | | | | |
| 委員名 | 「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性 ・戦略的事務事業は、年度戦略（小戦略）を実現するために妥当か。 ・実現するために見直しや改善点はあるか | | | 継続 | 改善有 | 改善無 | 見直し | 次年度以降に対する判断 |
| 集約 | ・概ね妥当と判断するが、あまり多文化にこだわらず、他から来る人を受け入れていく許容性といった点をとらえていくべきである。 | | | | | ○ | | |

| | | | | | | | | |
|-------|---|----------------------------|-------------|----|-----|-----|-----|-------------|
| 事業No. | 141 | 事務事業名 | 地域エネルギー普及事業 | | | | | |
| 基本目標 | 11 | 地球環境への配慮が当たり前の暮らしとまちづくりの推進 | | | | | | |
| 年度戦略 | ③ | 地域産再生可能エネルギーの創出と活用 | | | | | | |
| 委員名 | 「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性 ・戦略的事務事業は、年度戦略（小戦略）を実現するために妥当か。 ・実現するために見直しや改善点はあるか | | | 継続 | 改善有 | 改善無 | 見直し | 次年度以降に対する判断 |
| 集約 | ・太陽光発電については、自家消費推進のPRを積極的に推進されたい。 ・太陽熱温水器と太陽光発電設備の設置場所は屋根に頼らざるを得ないことから、飯田市としてどちらを優先するのか整理し、目標値について再考されたい。 ・小沢川小水力発電所については、事業推進のための最善策を考える必要がある。 | | | | | ○ | | |

| | | | | | | | | |
|-------|---|----------------------------|-------------|----|-----|-----|-----|---|
| 事業No. | 143 | 事務事業名 | 脱炭素先行地域構築事業 | | | | | |
| 基本目標 | 11 | 地球環境への配慮が当たり前の暮らしとまちづくりの推進 | | | | | | |
| 年度戦略 | ③ | 地域産再生可能エネルギーの創出と活用 | | | | | | |
| 委員名 | 「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性 ・戦略的事務事業は、年度戦略（小戦略）を実現するために妥当か。 ・実現するために見直しや改善点はあるか | | | 継続 | 改善有 | 改善無 | 見直し | 次年度以降に対する判断 |
| 集約 | ・川路地区が先進地域のモデルとなり、今後どのように市内に広めることができるのか課題。 ・市内全小中学校も事業目的の対象になっている、脱炭素化へ向けた LED への切り替えについては環境学習という面からも教育委員会と連携をする必要がある。 | | | ○ | | | | ・本事業を一部の取り組みとすることなく、環境文化都市として全市的な取り組みにされたい。 ・市内全小中学校の脱炭素化へ向けた LED への切り替えについては教育委員会と連携し環境学習という面からも環境意識の醸成に取り組みたい。 |